

映画はもっと自由でいい。 だから、第2回大島渚賞は、 「該当者なし」 とさせていただきました。

坂本龍一、黒沢清ら審査員コメント掲載

昨年、PFF(ぴあフィルムフェスティバル)が、新たなる映画賞「大島渚賞」を創設しました。

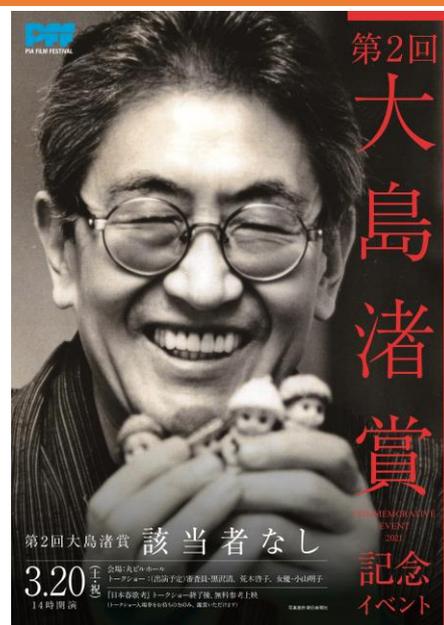
大島渚賞は、映画の未来を拓き、世界へ羽ばたこうとする、若くて新しい才能に対して贈られる賞です。

かつて、大島渚監督が高い志を持って世界に挑戦していったように、それに続く次世代の監督を、期待と称賛を込めて顕彰します。

[選考対象:日本で活躍する映画監督(劇場公開作3本程度)。原則として前年に発表された作品がある監督とする]

第1回は、『セノーテ』『鉦 ARAGANE』が世界各国で高い評価を受けるなど、次々に新たな作品を生み出している小田香監督が受賞し、話題を呼びました。

この度、第2回目の受賞者を発表すべく選考を進めてきましたが、審査員の総意として、「該当者なし」という結果に至りましたのでお知らせします。以下、審査員長である坂本龍一氏(音楽家)、審査員の黒沢清氏(映画監督)、荒木啓子(PFFディレクター)よりコメントです。



◎審査員長・坂本龍一

もし大島渚賞などという形で大島渚が権威になるのだったら、それこそ大島渚が最も嫌ったことだろう。

だから大島渚に迎合するのは絶対にだめなのだ。そうではなく大島渚を挑発し、批判し、越えていくことこそ最も大島渚賞にふさわしいと言えるのだ。

そのような映画にわたしたちは出会いたい。

◎審査員・黒沢清

「いろいろあったけど、よかったよかった」となる映画が多すぎる。

本当にいろいろあったなら、人は取り返しのできない深手を負い、社会は急いでそれをあってはならないものとして葬り去ろうとするだろう。

人と社会との間に一瞬走った亀裂を、絶対に後戻りさせてはならない。あなたがささやかに打ち込んだクサビは、案外強力なのだ。

よかったよかったと辻褃を合わせる必要なんかどこにもない。

「たかが映画だろう」と周りは言うかもしれない。

しかし映画とは何だ？ぼんやりとみなが想像するものだけが映画ではない。

表現の極北から見出される鋭い刃物のようなクサビで、人と社会とを永遠に分断させよう。これら二つが美しく共存するというのはまったくの欺瞞だ。

このような映画製作に挑む若者を探している。

それは大島渚が切り開いた道であり、決して閉ざしてはならないと思うから。

◎審査員・荒木啓子

国内外の映画キュレーターやジャーナリストから推された新人監督たちを語りながら、映画、そして映画監督への期待のみならず、映画の可能性、喜び、を覚醒させる坂本、黒沢両氏の、映画愛、大島渚愛溢れるスリリングな時間があつという間に過ぎていった。

青春映画、子供映画、恋愛映画、戦争映画、時代劇、実験映画にドキュメンタリー。そのフィルモグラフィの多彩さ、絶え間ない挑戦に驚かされる大島渚監督は、映画の技術を会得し、映画とはメロドラマであると言い切れる人だった。

いち早く海外に飛び出し、また、テレビという媒体の面白さも発見した人だった。多面体過ぎて掴むのが難しいほどのその活躍の芯にある、映画という創作。

大島渚賞の審査会議は映画についての長い熱い対話となり、思い切った決断結果となった。

つきましては、当初予定の授賞式に代えて、3月20日(土・祝)に、「第2回大島渚賞記念イベント」を開催いたします。黒沢清氏、荒木啓子が登壇し、この決断に至った審査員の思いを伝えます。また、特別ゲストとして大島監督夫人であり女優の小山明子氏をお迎えし、大島映画の魅力について語り合います。坂本龍一氏、黒沢氏が、ともに“ベストワン”と激賞する『日本春歌考』の特別上映も行います。

【第2回大島渚賞 記念イベント】

日時:2021年3月20日(土・祝)14時開演

会場:丸ビルホール(東京都千代田区)

トークショー:出演者(予定)

審査員・黒沢清、荒木啓子

特別ゲスト・小山明子

トークショー終了後、『日本春歌考』無料参考上映

トークショー入場券:一般2,500円、学生1,500円

3月8日(月)よりチケットぴあにて発売

※『日本春歌考』はトークショー入場券をお持ちの方のみ、鑑賞いただけます。



『日本春歌考』監督:大島渚
1967年/103分
(C)1967 松竹株式会社

<大島渚監督とPFF>

「松竹ニューベルバーグ」を生み、独立プロダクションを設立して、『日本春歌考』『絞死刑』『少年』『儀式』等の話題作を連打していた大島渚監督は、『愛の亡霊』でカンヌ映画祭の最優秀監督賞を受賞するなど世界を視野に活躍するなか、毎年PFFに応募された8mmの自主映画を大量に観て次世代を応援し続けてくださいました。

*79年から88年まで現在の「PFFアワード」(88年よりコンペティション形式)の審査員を務めた。

◎「大島渚賞」公式サイト <https://pff.jp/jp/oshima-prize/>

◎お問い合わせ:

ぴあ株式会社 広報室 TEL 03-5774-5294 / koho@pia.co.jp

一般社団法人PFF TEL 03-5774-5296 / 茨木: ibaragi@pff.jp 中山: nakayama@pff.jp

PFF
PIA FILM FESTIVAL